

第4学年4組 道徳科学習指導案

授業者 横山 敦士
共同立案者 岡田潤 北原美都
吉村睦 篠田清隆
藤田秀真 村居幸
高橋歩

- 1 日時 令和4年6月16日(木) 第5校時(14:00~14:45)
- 2 場所 4年4組教室
- 3 主題名 一人一人の大切な考え 内容項目 B-(10) 相互理解・寛容
- 4 教材名 「学級会での出来事」 道徳 4年 きみがいちばんひかるとき (光村図書)
- 5 主題設定の理由

(1) 児童の実態と教師の願い

本学級の児童は周りをよく見て行動することができる。困っている人がいれば、進んで助けようとする優しい児童も多い。しかし、授業では、周りの意見に同調することはあっても自信のなさから自分の意見を主張することは少ない。

そこで「教室はまちがうところだ」(著: 蒔田晋治 こどもの未来社)を紹介し、それを受けて授業における決意を書かせた。児童は「まちがいをおそれず、発言する」「勇気を出して手を挙げる」など前向きな気持ちを高め、それを意識しながら日々の授業に臨むと、手を挙げて発言しようとした心がかたり、発言を増やそうと自分たちで声をかけ合ったりするなど、少しずつ変化が見られた。約1か月で発言が増えた要因は、決意を基に自分の殻を破り、発言する勇気をもてるようになったことだと考える。しかし、自信がなさそうに小さな声で話す姿や、自分の意見がみんなに認めてもらえるか不安そうに発言をする姿も見られる。その理由は、決意を基に発言する勇気をもてるようになった反面、自分の考えが本当に正しいのか心配になったり、自分の考えに対して周りがどう思っているのか不安になったりしているためではないかと考えた。多様である人の考えや意見を学級全体が受け入れる雰囲気を作ることによって、安心感が増し、進んで自分の考えを主張できるようになるだろう。本単元を通して、自分の意見を主張することの大切に加え、自分とは異なる相手の考えを理解し、広い心で相手の意見を受け入れられるようになってほしい。

(2) 教材「学級会での出来事」について

主人公のさとみのクラスでは、みんながもっと仲良くなるためにお楽しみ集会をすることになり、どんな集会にするかを学級会で決めることになった。人気者のよしきが、ドッジボール集会を提案すると、賛成の声が相次いだ。あずさが歌の集会を提案するとよしきが反対をし、周りの子も同じような考えを口にした。影響力が強いよしきの意見が認められ、他の意見が否定される状況に辛くなったあずさや、そんな雰囲気に自分の意見が言えなくなったさとみについて考えるという内容である。本教材を通して、話し合いでは、立場や考え方が多様であることに気付き、自分とは異なる意見でも受け入れようとする実践意欲と態度を育てたい。

6 本時の指導

(1) ねらい

話し合いをするときに大切なことを考え、自分とは異なる意見を受け入れようとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 本時の構想

あずさがなぜ自分の意見を取り下げたのか、よしきたちはなぜ反対したのか、さとみはなぜ歌の集いに賛成だということと言えなくなってしまうのか、登場人物の気持ちを想像させる。それぞれの立場から考え方の違いに気付かせ、登場人物の気持ちに共感させる。その後、どうすると学級会がうまくいったと思うかを考えさせ、登場人物に向けてアドバイスさせる。そこで、話し合いをするときは誰か一人の問題ではなく、クラス全体が多様な意見を認め合える雰囲気になることが大切だと気付かせたい。そして、この教材を通して、自分たちの生活を振り返り、改めて話し合いをするときに大切にすることは何かを考えさせる。そうすることで、教材文の出来事をより自分事としてとらえることができるだろう。立場が違う人がいることに気づき、自分とは異なる意見を受け入れることの大切さについて考える姿を期待したい。

(3) 準備

ワークシート、挿絵、センテンスカード

(4) 学習課程

	学 習 活 動	指導上の留意点・支援
導入 3	1 これまでの実践を振り返り、発言ができるようになってきたことを実感する。 ・「教室はまちがうところだ」の授業で決めたことをがんばっているよ。 ・前は発言するのがはずかしかったけど、今は言えるようになってきた。	・自分の決めた目標を書いた短冊に注目させ、目標に対してどれくらいがんばれているかを振り返る。 ・これまでの児童のがんばりを認め、成長してきたことを実感させる。
展開 13	2 範読を聞いて、登場人物の気持ちを出し合う。 あずさ：下を向いて自分の意見を取り下げた。 ・せっかく意見を言ったのに。責められて悲しい。 さとみ：賛成意見を言うのをやめた。 ・黙っておこう。 ・あずさに賛成だけど、言えない雰囲気だな。 よしきたち：あずさの意見を否定した。 ・絶対ドッジボールがいい。 ・早く決めたい。 ・みんなが言っているから決まり。 ・歌はいやだな。 3 登場人物の気持ちに共感する。	・挿絵をもとに登場人物はどのように行動したかを確認し、その気持ちを考えていく。 ・あずさやさとみの気持ちばかりが出た場合は、よしきやそれに賛成していた人たちの気持ちも出させる。 ・自分の意見を言い出せなかったあずさやさとみ以外の人がいることをおさえる。 ・導入で出し合ったことと合わせて、あずさの悲しい気持ちやさとみの言い出しづらい気持ちに共感させる。
28	4 みんながどうすると、この「話し合いはうまくいった」のか考え、登場人物に向けてアドバイスする。 ・「歌なんかより…」という言い方がよくないから、「歌もいいけど、ぼくはドッジボールが…」に変えたらいいと思うよ。 ・「ぼくも反対…」だと、意見を否定された気がするから、「 <u>ぼくはあずささんとちがって</u> …」のほうがいいな。 ・「わがままはいけない」と言っていたけど、わがままではなくて、自分の考えだし、話し合いなんだからいろんな意見が出て当たり前だと思う。これは言うてはいけないと思う。	・アドバイスを考えさせる前に「話し合いがうまくいく」ということの定義を確認する。「話し合いがうまくいく」とは、悲しい気持ちになる人がいないこと、たくさんの人が意見を出せること、自分の思っていることをみんなが発言できることとする。 ・アドバイスだけでなく、理由まで考えられるように押さえてから書かせる。 ・なぜそのアドバイスをするのか問う。理由の中に相手の意見を受け入れること、聞く側の態度に関することが出たときに確認する。

40	<p>5 話し合いをするときに大切にしたいことが何か考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違う意見でもしっかり聞くこと。 ・どんな意見でもリアクションを意識する。 ・みんなで話しやすい雰囲気を作ること。 ・相手の意見のいいところも考えてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをするときにどんなことを大切にするかを話し合う。 ・話を聞く時の行動が出た際には、なぜその行動が大切だと思ったのか理由を聞き、心の部分を強調する。
終末 45	<p>6 授業を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをするときには、発言をする人も大事だけど、聞く人がしっかり聞くことでいい話し合いになると思いました。 ・どんな意見も受け入れようとする心を大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業で考えたこと、自分の考えが深まったこと、これからどうしていきたいかについて書かせる。 ・この授業のねらいとする価値に気付けた児童を指名して発表させる。

(5) 評価

話し合いをするときに大切なことを考え、自分と異なる意見を受け入れようとする気持ちを高めることができたか（話し合いでの様子・ワークシート）

(6) 板書計画

学級会での出来事

話し合いをするときに大切にしたいこと

- ・みんなの意見をしっかりと聞くこと
- ・明るい言葉でリアクションする
- ・クラスみんながいい雰囲気
- ・自信をもって自分の意見を言う
- ・どんな意見も受け入れる
- ・相手の意見を聞き入れる

・歌もいけれど
↓
相手の意見も尊重する
・ぼくは違っても
↓
みんなと違っているとわいにく

・絶対ドッジボール
・盛り上がる
・みんな言ってる
・歌はやりたくないな

・他にいませんかと聞いてみる
↓
言えない人がいるかも
・ちゃんと主張する

・責められた
・悲しい
・せつかく
言ったのに

・黙っておこう
・賛成だけど
・言えない雰囲気

・みんなが話しやすい・間違えても安心
・自分の意見を言える・いろんな意見を出せ

・勇気を出して賛成する
↓
あずさのためにも